

2022 年度Ⅰ期 グループ企画

番号	氏名	渡航先	国・地域	渡航先での受入期間
1	S・S	メータオクリニック・ シャンティ国際ボラン ティア会	タイ	2022/8/20-8/26
2	I・N			
3	I・R			

令和4年度岸本国際交流奨学金による海外活動実施報告書

医学部医学科	4 年	学籍番号： *****	氏名： S・S
--------	-----	-------------	---------

渡航先国： タイ
受入機関名： メータオクリニック
渡航先機関での受入期間： 令和 4 年 8 月 22 日 ～ 令和 4 年 8 月 23 日（2日間）

●スケジュール一覧

- 8月20日 バンコク着
- 8月21日 メーソート着
- 8月22日 メータオクリニック、HIV 患者のシェルター、移民学校、孤児院への訪問
- 8月23日 タイ/ミャンマー国境見学、シャンティ国際ボランティア会への訪問
- 8月24日 Assistance Association for Political Prisoners, AAPP の博物館見学
- 8月25日 バンコク発
- 8月26日 帰国

●活動目的

環境医学・公衆衛生学実習で「国際保健」を選択し、「難民と健康」に関して問題意識を持ち、机上でリサーチを行いました。難民について調べる中で、タイにはミャンマーからの難民が長期間にわたって存在し、さらに2021年のミャンマーの軍事クーデター以降新規の難民がタイに避難していることを知りました。タイ/ミャンマー国境付近のメータオクリニック(タイ側)ではミャンマーからの難民や移民に対して無償で医療サービスを提供していることを知りました。そこで、「難民の健康状態を改善する」という問題を解決する手がかりを得ることを目的として、メータオクリニックを訪問する計画を立てました。

●活動内容

メーソートはタイ/ミャンマー国境（タイ側）に位置し、市民のおよそ7割がミャンマーからの難民や移民と言われています。現在もミャンマー側の情勢の影響を受け、ミャンマー人が移住してきます。その街で難民や移民の健康に関わる活動を行う施設や団体を訪問し、インタビューを行いました。

まず、ミャンマーからの難民や移民に対し無償で医療サービスを提供している病院であるメータオクリニックを見学させていただきました。また、副院長の Sophia 氏をはじめ

め、現地の医療スタッフや NGO のボランティアなど病院に関わる様々な方に話を聞きました。限られた設備や人材でどこに比重をおいて病院を運営するか、タイ国内での当病院の立ち位置などについて興味深い知見を得ることができました。

次に、SAW(Social Action for Children and Women)が運営する HIV 患者のシェルターと孤児院を訪問しました。施設に住む人々の生活や地域コミュニティとの関わりについて学びました。

続いて、CDC(Children's Development Centre)という移民学校を見学させていただきました。学校の教師に校内を案内していただき、生徒と交流する機会もありました。また、衛生教育や生徒の進路などについて話を聞きました。

最後に、シャンティ国際ボランティア会の事務所を訪問し、代表にインタビューを行いました。当団体はタイ国内の難民キャンプに図書館を設置する事業を中心に、難民支援を行なっています。難民キャンプ内での健康問題や、図書館事業による子どもの衛生教育などについて詳細な話を聞くことができました。

他にも、タイ/ミャンマーの国境線となる河川まで足を運び、ミャンマーの紛争の歴史博物館を訪れるなど、大変貴重な経験をすることができました。

●成果と今後の抱負

難民や移民の暮らしについて知見を広げ、彼らの健康や医療へのアクセスについて非常に有意義なフィールドワークを行うことができました。

現地での見学やインタビューを通し、特に移民の法的扱いや難民の認定制度、移民への医療保険制度などが彼らの生活水準に大きく関わることを学びました。普段は身近に感じづらい国際的な問題に対する意識を一層強く持ち、解決の一助となれるような医師を目指したいと感じました。

また、現在も増え続けている移民や難民の医療需要と限られた資源のバランスを考え、助けられる患者を助ける、というメタオクリニックの考え方は個人的に斬新に感じ、死生観について今一度考えさせられる機会にもなりました。

●謝辞

この度は岸本忠三先生の多大なご支援を賜り、充実したフィールドワークを行うことができました。この場で岸本先生、及び関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

令和4年度岸本国際交流奨学金による海外活動実施報告書

医学部医学科	4 年	学籍番号：*****	氏名：I・N
--------	-----	------------	--------

渡航先国：タイ
受入機関名：メータオクリニック、シャンティ国際ボランティア会メーソート事務所
渡航先機関での受入期間： 令和 4 年 8 月 22 日 ～ 令和 4 年 8 月 23 日（2日間）

スケジュール一覧

8月20日バンコク着

8月21日メーソート着

8月22日メータオクリニック、HIV患者のシェルター、移民学校、孤児院への訪問

8月23日タイ、ミャンマー国境見学、シャンティ国際ボランティア会への訪問

8月24日 Assistance Association for Political Prisoners, AAPP の博物館見学

8月25日バンコク発

8月26日帰国

●活動の目的

環境医学・公衆衛生学実習で「国際保健」を選択し「難民と健康」に関して問題意識をもって机上で勉強をしていました。難民について調べる中でタイにはミャンマーからの難民が長期間にわたって存在しさらに2021年のミャンマーの軍事クーデター以降新規の難民がタイに避難していることを知りました。タイとミャンマーの国境付近のタイ側にあるメータオクリニックではミャンマーからの難民や移民に対して無償で医療行為を行なっていることを学び、直接その医療の現場を訪問し難民の健康状態を改善するために何が大切なのかという課題の手がかりを得ることを目的としてメータオクリニックを訪問する計画をたてました。

●活動内容

以下の4つのフィールド調査を行いました。1メータオクリニック、2HIV患者のシェルター、3Children's Development Centre (CDC)、4シャンティ国際ボランティア会メーソート事務所についてです。1から3についてはNPO「メータオクリニック支援の会」(JAM)のスタッフの方でメータオクリニックに派遣されている日本人医師及びスタ

ップの方に案内していただきました。

1 メータオクリニックへの訪問

【メータオクリニックの概要】

メータオクリニックは 1989 年にタイ国メーソートに設立され、ミャンマーからの難民に対して保健医療サービスを提供し続けています。設立者の **Dr Cynthia Maung** は医師でもあり、第一線で難民患者を診てこられた方で 2002 年にマグサイサイ賞を受賞されています。このクリニックは日本の TV で取り上げられたこともあり、日本からの学生のスタディツアーも 2012 年までは受け入れてきていました。日本にも NPO「メータオクリニック支援の会」(JAM) が存在し、支援をされています。メータオクリニックのホームページのコンタクトフォームより我々が訪問したい旨を英語で送り、先方のスタッフの方と繰り返し調整を行うことで今回の訪問が決まりました。

【見学の内容】

副院長のソフィアさんからクリニックの概要についてのお話を伺い、その後施設内を案内していただきました。我々が訪問したのが月曜日の朝であり、週末をはさんだ月曜日は外来の患者さんが多くらしく写真のように各診療科に多くの患者さんが来ていました。朝には 50 名程度の患者さんが外の待合所で待っていました。診療科には眼科、産婦人科、小児科、予防接種、外科などがあります。

患者さんには難民キャンプから来ている患者の方やミャンマーからの移民（正式な移民、不法移民）の方などがいます。タイでは難民向けの保険があり月単位で加入できるのですが、なかなか患者さんは保険に加入していない状況とのことです。クリニックとしては難民保険に入ってもらおうと患者さんの医療費を後で請求することができるので、患者さんを保険に入ってもらおうための窓口などもありました。

事前に訪問する前にはクリニックの中には何人か医師の方がおり治療をしていると考えていましたが、実際には院長の **Dr Cynthia Maung** 医師以外には医師はおらず、クリニックの中でメディカルスタッフ（メディック）を育成し、そのメディックの方が治療や手術を実施するという形式でした。**Dr Cynthia Maung** 医師も忙しく通常診療はしていないと思われます。普段手術などを行うメディックの方にもお話を聞いたところ陰嚢水腫や鼠径ヘルニアなどの比較的簡単な手術を主に行なっているとのことでした。実際に、我々が見学した時もメディックがオペ室で手術を行っていました。メータオクリニックで手術できない患者さんはメーソート病院に送りますが、費用の問題で手術等はできずそこで諦めることになる場合も多いという実情を知りました。

また、実際に入院している患者さんのお話をきくことができミャンマー軍の方でお腹に銃撃を受けた患者さんなどの話を聞きました。傷は良くなっているとのことでした。

が、なかなか質問をしづらい重い雰囲気がありました。入院患者は基本的にその患者を世話する家族や友人の方が一緒におりベッドの下で寝泊まりをするという形式でした。無償で入院させている患者さんに対して1日2回（一応、栄養のバランスを考えた）食事が出ることも驚きでした。

また、忙しくてお会いできないと事前に言われていた設立者の Dr Cynthia Maung さんにもお会いすることができました。



各診療科の外来の様子（左）と入院病棟の様子（右）

2 HIV 患者のシェルターへの訪問

メータオクリニックの関連の **Social Action for Children and Women (SAW)** という団体の運営している **Health care house** を訪問しました。こちらの施設はもともとメータオ・クリニックに捨てられた子供のための孤児院で今は身寄りのない女性や子供のシェルターになっており、**HIV 感染**で行き場所を失った方がほとんどでした。非常につらい経験をしてきた方たちで、子供もおり体調が優れている子供は学校に行けている人もいたとのことでした。しかし、平日に訪問した時にそのシェルターにいた子供達は学校に行けてないことを悟りました。重い雰囲気があり、学校のことなどについて詳しく聞ける感じではありませんでした。部屋なども見せていただきましたが複数人で同じ部屋で暮らしており衛生状態は良くないと感じました。日中は編み物をするなどの仕事をされているとのことで私も小物を購入しました。

3 Children's Development Centre (CDC)への訪問

クリニックが運営する移民学校である **CDC** を見学しました。**CDC** の規模は想像以上に大きく 5 歳から 17 歳のミャンマーからの移民の子供が 900 人程度通っています。1 ヶ月 400 円程度の学費を支払っているそうです。今回のミャンマーのクーデターによって 400 人の学生が 900 人に増えたそうで、外に特設された教室も使用されていました。社会科の先生の方に学校を案内してもらい実際に授業のクラスにいれてもらい学生と話をすることができました。

4 シャンティ国際ボランティア会メーソート事務所への訪問

7つのカレン族の難民キャンプで15の図書館に本を提供していることや読み聞かせを実施していることなど現地のスタッフの方から活動の概要について説明していただきました。実際にキャンプに配布している本を見させていただいたところ6〜7割は日本語の本で、添付した写真のように日本語の上にカレン語の文字が貼り付けてありました。人気の本は「大きな株」ということでした。実際に「はらぺこあおむし」の本の写真を載せます。また、絵本の読み聞かせを通して難民の子供に衛生教育を実施していることも教えていただきました。歯磨きの本を使った読み聞かせを聞いたので下に写真を載せます。本の翻訳にあたり出版社に許可をとる作業が大変とのことでした。



歯磨きの本で衛生教育を実施（左）、「はらぺこあおむし」の本（右2枚）

●成果と今後の抱負

タイとミャンマーの国境の街、メーソートに訪れその街にはミャンマーの方が7割住んでいると現地ではいわれており、難民の他にも移民や不法移民の方が多く暮らしている現状を目の当たりにしました。そのような方々は医療費を払えない中で最低限の生活をしており、その人たちにとって医療とは何なのかを考えるきっかけとなりました。タイ政府はミャンマーからの移民をあまり歓迎していない状況で、その政治的背景が現地の不法移民などを生み、不法移民には安い給料の仕事にしかつけない状態にあります。そのためお金がなく保険にも入っていないので一般の病院に行けず、メータオクリニックにかかっているという流れがあります。タイには私設の M-fund という移民健康保険があるそうですが、ミャンマーの方々は月額でお金を払って入会するという文化がありませんことや費用を払えないことから入会が増えていないと聞いています。月額、1人あたり毎月100タイバーツ（約390円）の保険料がかかり、50歳以上の人は毎月200タイバーツ、慢性疾患を持っている人は毎月300タイバーツと決して安くはない費用だと感じています。難民の健

康について考える際に難民が入れる保険制度を国やボランティアなどの費用を使って整えることが重要だと学びました。

また、シャンティ国際ボランティア会や移民学校を訪問する中で、(難民や) 移民の方々が一生懸命英語を勉強し高卒認定の資格を取ろうとしていることを知りました。CDCに通っている子供たちは英語をとてもしつうに話しており驚きました。教育を受けることで少しでも将来良い仕事に就くことができるので子供の教育の機会を確保することが重要だと肌で感じました。今回見学した孤児院の子供達は移民学校に通っていましたが、より貧困で学校に行けない子供もいる中で、教育を受けること、将来お金をかせぎ日々の生活を送ることが直近の課題であり、そのうえで(余裕があったら) 健康を考えるという優先順位なのではないかと学びました。そのため、今回の渡航の前には難民の健康と教育が結びつくとは思っていませんでしたが、健康を確保するために子供が教育を受ける機会を確保することが重要であると感じました。今回コロナウイルスの影響もあり実際の難民キャンプを訪問できなかったことは残念でしたが、JAMのスタッフに奥さんと子供が難民キャンプで暮らしており出稼ぎで働いているミャンマー人の方がいらし、その方から難民キャンプについての話や写真を多く見せてもらうことができました。

今後の抱負としては、難民、移民、不法移民という3つの方々に対する医療や保険制度がどのようなになっているのかをもう一度調べなおし、この切り口から健康状態の課題について考えたいと思います。また、難民向けの保険制度の詳細についても詳しく調べ、その保険に不法移民は加入できるのかなどの具体的な部分を調査しグループでディスカッションをします。今回のフィールドワークを通して国際NGOやNPOで働く方々と話す機会を多く得ることができ、その方々の熱量、熱意や使命感に強い感銘を受けました。そのような国際協力の中で、将来医師として難民や移民の医療や健康改善にどのように関われるのかについても考えていきます。

●謝辞

岸本先生の多大なる援助によりこの実習に参加することができ多くの成果を得ることができました。また、今回の訪問にあたって、お世話になりました安田先生、JAMのスタッフの方々、また教務課の方々にも感謝いたします。

2022 年度 岸本国際奨学金による海外活動報告書

渡航先及び受け入れ機関名

タイ メーソート

メータオクリニック、シャンティ国際ボランティア会

大阪大学医学部 4 回生 I・R

海外活動期間: 2022 年 8 月 20 日～8 月 26 日

1.活動の目的・概要

環境医学・公衆衛生学実習で「国際保健」を選択し「難民と健康」に関して問題意識をもって机上で勉強をしていました。難民について調べる中でタイにはミャンマーからの難民が長期間にわたって存在しさらに 2021 年のミャンマーの軍事クーデター以降新規の難民がタイに避難していることを知りました。タイとミャンマーの国境付近のタイ側にあるメータオクリニックではミャンマーからの難民や移民に対して無償で医療行為を行なっていることを学び、直接その医療の現場を訪問し難民の健康状態を改善するために何が大切なのかという課題の手がかりを得ることを目的としてメータオクリニックを訪問する計画をたてました。

2.スケジュール一覧

8 月 20 日バンコク着

8 月 21 日メーソート着

8 月 22 日メータオクリニック、HIV 患者のシェルター、移民学校、孤児院への訪問

8 月 23 日タイ、ミャンマー国境見学、シャンティ国際ボランティア会への訪問

8 月 24 日 Assistance Association for Political Prisoners, AAPP の博物館見学

8 月 25 日バンコク発

8 月 26 日帰国

3.活動の内容・報告

メータオクリニック

まずは副院長であるソフィアさんのメータオクリニックの概要について聞きました。このメータオクリニックには、医師免許をもって医療行為を行っている人は院長であるシンシア医師ただ一人で、その他はメータオクリニックで育成されたメディックと呼ばれる人たちによって医療行為がなされています。また、クリニックのスタッフはミャンマー人によって構成されており、クリニック内で使われている言語はミャンマー語もしくは英語でした。

次に、病院内を見学して回りました。小児科、眼科、歯科、外科、産婦人科、薬局など診療科はしっかりと分かれており、各外来は非常に混みあっていました。また、ミャンマーからの移民や難民はタイの公的な保険制度に加入できていないため、メータオクリニックでは私立の保険制度への加入を勧めており、病院の一角に保険制度に関する説明を行う窓口が設置されていました。ミャンマーからの移民や難民の間ではまだ保険制度というものが浸透していないそうです。外科では minor surgery のみを行い、ミャンマーでの戦闘によって負傷した人も入院していました。設備としては、インキュベーターやエコー、酸素ボンベは設置されていましたが、X線はなく X 線検査を行う場合は近くのタイの公的病院であるメーソート病院に送るそうです。クリニックではできる治療が限られており、より高度な医療行為が求められる場合はメーソート病院に送られるそうです。しかし、がんなど罹った患者(抗がん剤等の治療が金銭的に受けれない移民の患者)は自分の村にかえって余生を過ごすことも多いそうです。

メーソートのミャンマー移民

メーソートには国境の街ということだけあって、ミャンマー人が多く居住しておりミャンマー人街が形成されています。聞いた話では、メーソートの人口の 7 割がミャンマー移民により構成され、正規の手続きで入国した移民ばかりではないそうです。そのような人たちはタイの保険制度にも加入できず、タイの公的病院にもかかることができずメータオクリニックを頼るそうです。メータオクリニックの関連団体として移民のための学校や孤児院なども見学しました。

シャンティ国際ボランティア会 メーソート事務所

シャンティ国際ボランティア会は難民キャンプ内で図書館を設置している団体で、難民や難民キャンプ内の学校への本の貸し出しや、難民の子供への読み聞かせなどを通して、難民の教育を支えています。歯を磨くことを教える本や、手足口病の本、かさぶたに関する本、

手洗いうがいに関する本などを通して衛生面の教育にも従事しています。なかには日本語の絵本をカレン語(難民キャンプに住んでいるミャンマーの民族の言葉)に翻訳して置いているものもありました。

まとめ

国境の街メーソートで見たことや聞いたことは衝撃の連続でした。メータオクリニックで医療行為を行っているのが正規の医者ではなくメディックであることや、ほとんどが医療行為を行う側も逃げてきたミャンマー人で構成されていること、死生観の違いなど驚きの連続でした。また、私たちは難民の健康保健というトピックをもって見学に行ったのですがこのメーソートという町では移民(なかでも正規の手続きを踏んでいない移民)の問題も非常に深刻であるということに気づかされました。保険制度の問題、居住環境や衛生環境、受け入れる医療機関の問題など難民の問題のみならず移民の問題にも視野が広がった良い経験になりました。

4.謝辞

この海外での公衆衛生・環境医学実習を実施するにあたり多くの方々にお世話になりました。大阪大学大学院医学系研究科環境医学教室 祖父江友孝先生をはじめ、お忙しいなか私たちを受け入れて下さったメータオクリニック、シャンティ国際ボランティア会、その他関連団体の方々、お世話になった安田先生、NPO 法人「メータオ・クリニック支援の会」有高先生、に感謝申し上げます。また、今回の海外での活動にご理解をいただき、奨学支援をしてくださった岸本忠三先生に心からの感謝を申し上げます。